

一般社団法人 日本原子力学会  
第 69 回 標準委員会 (SC) 議事録

- 1 日時 2017 年 06 月 07 日 (水) 10:00~18:50
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (敬称略) (開始時)
  - (出席委員) 関村委員長, 越塚副委員長 (途中から (入室, 退室)), 青柳 (途中から退室), 井口 (途中から入室), 伊藤, 上田, 岡本 (太), 河井, 清水, 高橋, 竹山 (途中から退室), 多田 (途中から退室), 中井 (途中から退室), 成宮, 新堀, 西野, 萩原, 藤森 (途中から退室), 渡邊 (19 名)
  - (フェロー委員) 宮野, 成合 (途中退室) (2 名)
  - (代理委員) 波木井順一 (東京電力ホールディングス/姉川), 鈴木嘉章 (原子力安全推進協会/岡本 (孝)) (2 名)
  - (委員候補代理) 上田真三 (三菱マテリアル), 酒井俊朗 (電力中央研究所), 中村武彦 (日本原子力研究開発機構) (3 名)
  - (欠席委員) 小原, 寺井, 山口, 吉原 (4 名)
  - (常時参加者) 鈴木, 山中 (2 名)
  - (オブザーバ) 北嶋宜仁 (日本原子力発電) (1 名)
  - (説明者) 【標準活動基本戦略タスク】伊藤主査, 河井幹事, 成宮幹事, 高橋委員, 中越事務局, 【水化学管理分科会】北島幹事, 梅原常時参加者, 【核燃料施設リスク評価分科会】吉田主査, 眞部幹事, 高橋委員, 村松委員, 【レベル 1PRA 分科会】高田主査, 橋本幹事, 【風洞実験実施基準分科会】佐田副主査, 伊藤幹事, 【PLM 分科会】中川幹事, 松藤委員, 伊藤常時参加者, 【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】梅原幹事, 柏木委員, 田中委員, 【原子力安全検討会リスク活用分科会】村松主査, 成宮幹事 (延べ 23 名)
  - (事務局) 中越, 谷井 (2 名)
- 4 配布資料:
  - SC69-0 第 69 回標準委員会議事次第 (案)
  - SC69-1-1 標準活動基本戦略タスク 2017 年度第一回議事録
  - SC69-1-2-1 用語辞典 WG 運営要領
  - SC69-1-2-2 標準作成ガイドライン 2016 の発行
  - SC69-1-3 2017 秋の年会の企画セッション提案書
  - SC69-1-4 平成 29 年度第 1 回標準活動運営委員会議事録
  - SC69-1-5 学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況 (その 22)
  - SC69-1-6 自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループ (第 15 回) -議事要旨
  - SC69-1-7 米国の学協会規格の活用を支える規格基準類 (国及び民間)
  - SC69-2 第 68 回標準委員会議事録 (案)
  - SC69-3-1 人事について (標準委員会)

- SC69-3-2 標準活動基本戦略タスクの委員交代について
- SC69-3-3 人事について（専門部会）
- SC69-4-1 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針” の公衆審査結果について
- SC69-4-2 “加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針” の公衆審査結果について
- SC69-4-3 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針” の公衆審査で受付けた意見への対応表
- SC69-4-4 “沸騰水型原子炉の水化学管理指針” 公衆審査後の改定前後比較表
- SC69-4-5 “加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針” 公衆審査後の改定前後比較表
- SC69-5-1 第 68 回標準委員会での主な質疑に対する回答
- SC69-5-2 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201\*” 標準委員会意見募集で受け付けた意見への対応表
- SC69-5-3 【本報告】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201\*” の概要
- SC69-6 “原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 1 PRA 編：201X” 定例改定に係る標準委員会報告
- SC69-7 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準” 改定案に関する本報告について
- SC69-8-1 PLM 実施基準 2015（追補 1～2 を含む）誤記確認結果
- SC69-8-2 原子力発電所の高経年化対策実施基準：2016（追補 1）正誤表
- SC69-9-1 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）” の誤記等内容検討結果について
- SC69-9-2 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）” の誤記等内容検討結果
- SC69-9-3 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010（AESJ-SC-F021：2010）” の正誤表（案）
- SC69-10-1 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015（AESJ-SC-F014：2010）” の誤記等内容検討結果について
- SC69-10-2 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015（AESJ-SC-F014：2010）” の誤記等内容検討結果
- SC69-10-3 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015（AESJ-SC-F014：2010）” の正誤表（案）
- SC69-11-1 2016 年度活動報告および 2017 年度活動計画
- SC69-11-2 標準委員会活動全体計画（年間工程表）（H28 年版 H29 年版）
- SC69-12 技術レポート“リスク評価の理解のために（AESJ-SC-TR011:2015）” 改定
- SC69-13 「第 4 回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム」のご案内について
- SC69-14 専門部会活動状況報告
- SC69-15 標準委員会の活動状況

#### 参考資料

- SC69-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC69-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて（案）

#### 説明資料

- SC69-説明-1-1 標準委員会 倫理規程の周知徹底活動 倫理規程について
- SC69-説明-1-2 標準委員会 倫理規程の周知徹底活動 倫理規程事例 東日本大震災に

における原子力分野の事例に学ぶ技術者倫理

SC69-説明-1-3 標準委員会 倫理規程の周知徹底活動 行動指針について 2017 年度

SC69-説明-2 原子力学会の行動指針

SC69-説明-3 日本原子力学会倫理規程

SC69-説明-4 標準委員会活動基本方針

## 5 議事内容

事務局から開始の時点で委員(フェロー委員含め)27名中、21名の出席があり、委員会成立に必要な委員数(18名以上)を満足している旨、報告があった。

### (1) 【報告】原子力学会標準委員会の標準化活動基本戦略

#### (1-1) 標準活動基本戦略タスクの報告と論点(SC69-1-1)

標準活動基本戦略タスクの伊藤主査から SC69-1-1 に基づいて、標準活動基本戦略タスク 2017 年度第一回議事録について報告があった。

#### (1-2)用語辞典 WG の取組み及び標準作成ガイドラインの発行(SC69-1-2-1, SC69-1-2-2)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC69-1-2-1, SC69-1-2-2 に基づいて、用語辞典 WG の取組み及び標準作成ガイドラインの発行について報告があった。

#### (1-3)2017 秋の年会の企画セッション提案書(SC69-1-3)

標準活動基本戦略タスクの成宮幹事から SC69-1-3 に基づいて、2017 秋の年会の企画セッション提案書について報告があった。

#### (1-4)標準活動運営委員会の議事概要について(SC69-1-4)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC69-1-4 に基づいて、平成 28 年度第 4 回標準活動運営委員会の議事録概要について報告があった。

#### (1-5)3 学協会での学協会規格整備計画と標準委員会の対応(電事連との規格類意見交換会を含む)(SC69-1-5)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC69-1-5 に基づいて、学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況(その 22)について報告があった。主なコメントは、①学協会規格の体系化を急いで、学協会間の分担と連携を決める、②標準委活動 5 ヶ年計画も急ぐ、③標準委及び専門部会の分担並びにその連携の明確化を急ぐ、④第 3 者レビューの具体化を急ぐ、など

#### (1-6)エネ庁自主安全性 WG における日本版 NEI の検討と課題(SC69-1-6)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC69-1-6 に基づいて、総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 自主的安全性向上・技術・人材ワーキンググループにおける日本版 NEI の検討と課題について報告があった。設立されれば学協会のあり方に影響するので、今後の議論を把握していくことを合意した。

#### (1-7)エンドース関連の米国の規格基準(SC69-1-7)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC69-1-7 に基づいて、エンドース関連の米

国の規格基準について報告があった。質疑応答では、①まずは規程の整備が必要だが、標準策定の例に沿って説明があると分かり易い、②国からの金銭的支援（→国の規則では可能だが、今はもらっていない）、委員構成（→基本はボランティアで個人参加が結構ある）、第3者レビューの費用と要員（→結構かかるが、まずは学会でできる所から実施）、など。

午前中の審議について、最後に委員長から“本日の午前の審議は充実していて良かった。今後は年に1回はこういう会議を持ちたい”との纏めがあった。

(2) 【説明】原子力学会で定めた行動指針と倫理規程に関する周知について  
(2-1)原子力学会の行動指針と倫理規程について(SC69-説明-1-1, SC69-説明-1-2, SC69-説明-1-3, SC69-説明-2, SC69-説明-3, SC69-説明-4)  
倫理委員会の大場委員長から、SC69-説明-1-1, SC69-説明-1-2, SC69-説明-1-3に基づいて、原子力学会で定めた行動指針、倫理規程及び、原子力分野の事例に学ぶ技術者倫理について説明いただいた。引き続き、標準委員会の宮野フェロー委員から、SC69-説明-4に基づいて、標準委員会活動基本方針について説明いただき、意見交換を行われた。本活動は昨年度にスタートして2年目となるが、今年度は倫理規程の事例の紹介/意見交換を新規に実施し、本活動の強化を図っている。なお、SC69-説明-2, SC69-説明-3 は最新の“原子力学会の行動指針”及び“日本原子力学会倫理規程”として参考に配布した。

(2-2)標準委員会活動基本方針について(SC69-説明-4)  
標準委員会の宮野フェロー委員から SC69-説明-4に基づいて、標準委員会活動基本方針について説明があった。

(3) 前回議事録の確認 (SC69-2)  
前回議事録(案)について配付された案で承認された。

(4) 人事について (SC69-3-1, SC69-3-2, SC69-3-3)  
事務局配付資料の SC69-3-1, SC69-3-2, SC69-3-3に基づいて、標準委員会、標準活動基本戦略タスク及び専門部会の人事について以下の提案又は報告があった。幹事に伊藤委員が指名された。

なお、人事の案件は、確認事項を除き対象者は退席し、委員のみの自由討議を経て、審議される。

a. 標準委員会人事

- ①理事会による委員選任承認の確認  
竹山 弘恭(中部電力)
- ②理事会による委員再任承認の確認  
萩原 剛(東芝)  
岡本 太志(富士電機)
- ③委員退任の確認  
大鳥 靖樹(電力中央研究所)  
谷本 亮二(三菱マテリアル)  
本間 俊充(日本原子力研究開発機構)

- ④専門部会，分科会の委員との委員重複の承認決議  
越塚 誠一（東京大学）  
（基盤応用・廃炉技術専門部会委員，シミュレーションの信頼性分科会委員，品質確保分科会委員）  
上田 真三(三菱マテリアル)  
（原子燃料サイクル専門部会委員）
- ⑤委員の選任決議  
酒井 俊朗（電力中央研究所）  
上田 真三(三菱マテリアル)  
中村 武彦（日本原子力研究開発機構）
- ⑥委員再任の決議  
上田 親彦（九州電力）  
理事会による委員選任承認等が確認され，審議の結果，委員の選任等が決議された。
- b. 標準活動基本戦略タスク人事
  - ①委員の交代状況の確認  
中村武彦（原子力研究開発機構）  
システム安全専門部会 副部長（3/31 退任）  
→新副部長へ引継ぎをシステム安全専門部会で協議中  
委員の交代状況が確認された。
- c. リスク専門部会
  - ①委員退任（確認）の確認  
中田 耕太郎（東芝）  
越塚 誠一（東京大学）
  - ②委員選任（決議）の承認(決議)  
三村 聡(東芝)  
益子 裕之（原子燃料工業）
  - ③委員再任（決議）の承認(決議)  
鈴木 雅克（日本原子力発電）  
委員退任（確認）の確認がされ，審議の結果，委員選任（決議）等の承認が決議された。
- d. システム安全専門部会
  - ①委員退任（確認）の確認  
西田 浩二（日立GEニュークリア・エナジー）  
有田 誠二（三菱重工業）  
中村 武彦（日本原子力研究開発機構）
  - ②委員選任（決議）の承認(決議)  
木藤 和明（日立GEニュークリア・エナジー）  
大竹 幸彦（三菱重工業）  
鬼沢 邦雄（日本原子力研究開発機構）
  - ③委員（分科会代表者）選任（決議）の承認(決議)  
（同一組織からの複数委員の選任における専門分野が違う場合の了承決議のもの）

と) 統計的安全評価手法標準分科会, BWR 熱流動評価分科会  
工藤 義朗 (電力中央研究所)

④委員再任 (決議) の承認(決議)

後藤 大輔 (グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン)

鎌田 信也 (原子力安全推進協会)

委員退任 (確認) の確認がされ, 審議の結果, 委員選任 (決議) 等の承認が決議された。

e. 基盤応用・廃炉技術専門部会

①委員退任 (確認) の確認

西田 浩二 (日立GEニュークリア・エナジー)

伊藤 肇 (関西電力)

②委員選任 (決議) の承認(決議)

木藤 和明 (日立GEニュークリア・エナジー)

伊阪 啓 (関西電力)

③委員再任 (決議) の承認 (決議)

佐々木 学 (日本原子力発電)

委員退任 (確認) の確認がされ, 審議の結果, 委員選任 (決議) 等の承認が決議された。

f. 原子燃料サイクル専門部会

①委員再任 (決議) の承認 (決議)

片岡 秀哉 (関西電力)

熊崎 隆啓 (中部電力)

審議の結果, 委員再任 (決議) の承認が決議された。

(5) 【報告・審議】2016年度活動報告および2017年度活動計画

標準委員会活動の全体計画(年間工程表)(SC69-11-1, SC69-11-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤主査から SC69-11-1, SC69-11-2 に基づいて, 2016 年度活動報告(案)および2017年度標準委員会活動全体計画(案)について報告があり, 了承された。

(6) 【報告・審議】“沸騰水型原子炉の水化学管理指針”及び“加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”の公衆審査結果及び受付けた意見対応について

(SC69-4-1, SC69-4-2, SC69-4-3, SC69-4-4, SC69-4-5)

事務局からSC69-4-1, SC69-4-2に基づいて, “沸騰水型原子炉の水化学管理指針”は公衆審査で1名から意見が提出されたこと及び“加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針”については公衆審査で意見がなかったことが報告された。引続き, 水化学管理分科会の北島幹事, 梅原常時参加者からSC69-4-3に基づいて, 公衆審査で受付けた意見への回答案について報告があった。さらに, SC69-4-4, SC69-4-5に基づいて, 公衆審査後での両指針の見直し案について報告があった。回答案について審議した結果, 当該案は編集上の修正であること及び本案を意見提出者に回答すること並びに見直し案で制定することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C: PWR 水化学管理指針の参考文献(27)は, オリジナルの文献に対して転載許諾を取るべ

きであることから、元に戻すべきである。  
→拝承。

(7)【審議(本報告)】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201\*”策定に関する本報告について(SC69-5-1, SC69-5-2, SC69-5-3)

核燃料施設リスク評価分科会の吉田主査, 眞部幹事, 高橋委員, 村松委員から SC69-5-1, SC69-5-2, SC69-5-3 に基づいて, “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201\*”策定に関する第 68 回標準委員会での主な質疑に対する回答及び標準委員会意見募集で受付けた意見への対応案並びに当該標準策定に関する本報告があった。審議の結果, リスク専門部会での審議内容及び決議投票で受付けた意見に対する対応内容を標準委員会三役に提示する条件を付し, 三役一任でその内容を確認した後, 決議投票に移行することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

- Q: 10.4.3 式(1)の塑性エネルギー吸収係数  $F$  は, 構造特性係数  $D_s$  の逆数などのことか?
- A: その通りである。具体的な値は, 附属書 J から, 地震 PRA 実施基準の附属書を引用する形としている。
- C: 多質点系の場合は, 塑性エネルギー吸収係数の取扱いが難しいと考えられるが。
- A: その点については, 今後の課題である。
- C: 附属書 AD (規定) の表の備考欄記載の削除は規定内容ではないことから削除することを意見したが, 残すこととした理由を説明してほしい。
- A: 当該附属書では, 地震 PRA 標準を援用する形での規定記載としており, 表では地震 PRA 標準, その標準を一部見直し (追加, 削除), 用語読み替えをすることで本実施基準の規定とした内容, 援用に当たっての補足説明の三つを並べることで, わかりやすい形にまとめている。ただし, ご指摘の通り, 備考欄記載内容は規定でなく, また, 地震 PRA 標準も同様であることから, 本実施基準の規定を太枠で示すこととした。
- Q: 発電炉の PRA 標準を援用する形での規定策定は一般的か?
- A: 実績ある発電炉の PRA 標準の規定内容で, 可能なものは援用することで合理的な策定を進めた。このような策定の進め方は初めてということもあり, 当方分科会, リスク専門部会, 地震 PRA 作業会, 外的事象 PRA 分科会でも説明し, ご了解頂いている。
- C: 他に意見募集で意見を出された方で, 回答案に対して内容を確認して頂きたい。
- A: 提出した意見に応えた回答内容であり了解する。実施基準案の詳細な内容については, 決議投票で改めて確認する。
- A: 実施基準の記載内容をより理解しやすいものとする観点で意見を出した。回答は問題なく了解する。
- Q: 解説 3 の題名“審議中に問題となった事項”に記載ある“審議中”とはどこでの審議のことを指すのか?
- A: この題名は“標準作成の手引き”の例示と一致させたものであるが, ご指摘のように審議した主体が明確でない。実施基準は, 当方分科会, リスク専門部会, 標準委員会のいずれもが審議して制定されるものであり, その点を踏まえた題名に変更す

る。また、この変更に合わせて“問題となった事項”についても適切な表現（例えば、論点）に見直す。

Q：リスク専門部会での審議内容、決議投票で受付けた意見に対する対応内容は？

C：これは前回の標準委員会で説明がないことを指摘し、今回説明するようコメントしたものである。リスク専門部会としての審議スタンスの説明がない。

A：本報告資料（SC69-5-3）の表1にリスク専門部会の審議過程を示しており、検討進捗に沿って中間報告を2回実施したこと、4項で記載した主な課題のうち、(d)、(e)は、リスク専門部会でも審議して頂いたことを示している。例えば、“2段階評価”については、核燃料施設のリスクの特徴から適切であると了解を頂いている。

なお、リスク専門部会及び他の関連分科会（地震PRA作業会、外的事象PRA分科会）での主な議論は、別添にQ&Aの形で提示している。

C：当該資料では決議投票で受付けた意見とその対応内容の記載がなく、また、リスク専門部会としてのスタンスに基づいた審議内容（論点、結論）の説明がない。

A：リスク専門部会での審議については、先に説明があったとおり、長い時間をかけ何度も段階的に行った。その内容をまとめる。

C：では、それらを改めてまとめたものを標準委員会三役に提示する条件を付し、三役一任でその内容を確認した後、決議投票へ移行することとする。

(8)【審議（本報告）】“原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル1 PRA 編：201X”改定案に関する本報告について(SC69-6)

レベル1PRA分科会の高田主査、橋本幹事からSC69-6に基づいて、“原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル1 PRA 編：201X”改定案に関する本報告に関する本報告があった。審議の結果、標準案で標準委員会の決議投票へ移行することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C：炉心とSFPの独立評価を前提とした経緯、今後の関係評価に向けた課題などを解説にしておくとい。

Q：廃炉過程でのSFP評価は対象としているのか？

A：直接の対象とはしていないが、評価の参考にはなると考える。

Q：地震等による燃料落下など機械故障による損傷判定条件はないのか？

A：内の事象を対象としており地震は対象外。また、内の事象でも機械故障は対象外としており、その旨解説に記している。

Q：PCT1200度に対応するような有効燃料長頂部露出のより具体的な基準は設定しないのか？

A：ここでは停止時PRAの目的により、PCT1200度以外に冷却材インベントリの低下度合によっても評価が可能であることを主旨としている。解説などで位置付けを明確化している。

(9)【審議（本報告）】“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案に関する本報告について(SC69-7)

風洞実験実施基準分科会の佐田副主査，伊藤幹事から SC69-7 に基づいて，“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案に関する本報告があった。審議の結果，標準案で標準委員会の決議投票へ移行することが決議された。

(10) 【報告・審議】 PLM 実施基準 2016 (追補 1) 別冊の誤記確認結果(SC69-8)

PLM 分科会の中川幹事，松藤委員，伊藤常時参加者から SC69-8 に基づいて，PLM 実施基準 2016 (追補 1) 別冊の誤記確認結果について報告があった。審議の結果，正誤表をインターネットホームページに公表することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・PLM 実施基準は国の技術基準に引用されているわけではないため，NRA への特段の報告は必要ないことは，2008 年版誤記チェック時に確認済みである。
- ・正誤表別紙の訂正範囲のマーキングが，訂正範囲外を含んでいるため，訂正範囲のみ示すように修正して公表する。

(11) 【報告・審議】“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010 (AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果について(SC69-9-1, SC69-9-2, SC69-9-3)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会の梅原幹事，柏木委員，田中委員から SC69-9-1, SC69-9-2, SC69-9-3 に基づいて，“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010 (AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果について報告があった。審議の結果，誤記等内容検討結果について再度取りまとめ，取りまとめた結果を標準委員会 3 役に送付し，3 役がその内容を確認した後，正誤表をインターネットホームページに公表することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

- C：単純な“誤記”までを，下表の重要度分類②に加えて検討し，正誤表を作成しているが，標準タスクでは，そのような方針を出してはいない。②の区分と③の区分(誤記)を区分した上で，③の誤記までを正誤表に加えるかを検討した上で，再度，  
→拝承。

(12) 【報告・審議】“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)”の誤記等内容検討結果について(SC69-10-1, SC69-10-2, SC69-10-3)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会の梅原幹事，柏木委員，田中委員から SC69-10-1, SC69-10-2, SC69-10-3 に基づいて，“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)”の誤記等内容検討結果について報告があった。審議の結果，誤記等内容検討結果について再度取りまとめ，取りまとめた結果を標準委員会 3 役に送付し，3 役がその内容を確認した後，正誤表をインターネットホームページに公表することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C：単純な“誤記”までを，下表の重要度分類②に加えて検討し，正誤表を作成しているが，標準タスクでは，そのような方針を出してはいない。②の区分と③の区分（誤記）を区分した上で，③の誤記までを正誤表に加えるかを検討した上で，再度，諮ること。

→拝承。

(13)【報告・審議】技術レポート“リスク評価の理解のために(AESJ-SC-TR011:2015)”の改定について(SC69-12)

原子力安全検討会リスク活用分科会の村松主査，成宮幹事から SC69-12 に基づいて，技術レポート“リスク評価の理解のために(AESJ-SC-TR011:2015)”の改定について報告があり，今回の提案物は講習会用の資料として使用することが承認された。一方，技術レポートの改定等の在り方について標準活動基本戦略タスクで検討することが指示された。

主な質疑等は以下のとおり。

Q：そもそも技術レポートの第1版ではなぜ不確かさと不確実さが混在したのか？

A：このレポートでは，第2章において ISO 規格の考え方を紹介しながらリスク評価の一般的な意味を説明した上で，原子力発電所に関するリスク評価の手法として PRA を説明しており，前者では ISO の翻訳に沿って“不確かさ”と呼び，後者では学会標準に沿って“不確実さ”と呼んでいる。ただし，一部に表記の揺らぎがあるので，今回，定量的な計算の時のみ“不確実さ”とする考え方でレポート内の整合性をとろうとしている。

C：不確かさの定義については，ISO では，リスクの定義を“目的に対する不確かさの影響”としている。リスクの定義については IAEA の用語集の定義もある。このような世界の動向も踏まえて，きちんと解説を書いて欲しい。

A：このような技術的課題については，少し調査・検討を行って年度内に予定している次回改定で対応したい。

Q：今回の修正は第2版と呼ぶには小さい修正である。なぜこれを急いで行う必要があるのか？

A：講習会の経験から参加者のレベルに分布があるため，今年度は初級者と上級者を分けて開催する。初級者向けは今月に予定しているため，それに役立つ改定は早期に実施したかった。勿論，講習会の都合を優先して頂きたいという意図ではない。

C：改定の基本的なルールとして，5年程度毎に見直すことにしているのだから，あまり細かい改定は如何なものか。このような改定の在り方について，基本戦略タスクで検討してもらいたい。その間，今回提案された修正版は，“講習会用”として使用することを認めることとしたい。

C：基本戦略タスクにおける用語の検討においても，不確かさの定義が議論になっているので，これに関してはリスク活用分科会と情報交換を行いつつ進めたい。また，技術資料も標準の一環として定めているので，改定の在り方については，標準活動基本戦略タスクで検討されたい。

ここで，上記承認審議が成立するためには1票不足していたことが会議後に判明し，第70回標準委員会で再度審議した。その結果，当該技術レポートの提案物を講

習会用の資料として使用することが改めて承認された。

- 6 その他 (次回日程)  
次回は2017年9月6日(水) 午後から

以 上